

ART KISS
LETTER VOL. 59
2012 秋

米田知子さん



栗林隆さん

巻頭言

漱石・グールド：文化の領域を超えて

今年にはカナダの天才ピアニスト、グレン・グールドの生誕80年、没後30年の年に当たります。20世紀で最も刺激的で輝かしく、バッハ、モーツァルトやベートーベンの概念を変えたこのピアニストは、死の床に2冊の本を残していました。一冊はポロポロになった聖書、もう一冊が夏目漱石の『草枕』でした。ある時、長距離列車で旅行中、カナダの大学教授から薦められた英訳版『草枕』にグールドは取りつかれ、それ以来、暗記するほど何度も読み返しました。親しかった従姉には、彼は電話で二晩かけて全文を読み聞かせてもいます。愛読書の極みといえますが、グールドは『草枕』に入れ込み、作品を分解し、彼自身の『草枕』を再構築しているのが興味を引きます。歴史的背景や文化の異なる一冊の東洋の文学を読みこなし、まるで独自の音楽を演奏するように再創造することによって、遙か彼方の夏目漱石と根源的につながっていたのです。

ひるがえって今回の展覧会「生きる場所 ボーダーレスの空へ」をみますと、文化圏や地理的距離を超えて、若手アーティストの外国の地での活躍を実感することができます。言語、人種、自然観、世界観も異なる地で、その土地の歴史、文化、状況に対峙あるいは融合することにより、独自の芸術的展開を試みているのです。かつての故郷を失ったディアスポラの放浪ではなく、故郷から離れることにより想像力や記憶を掻き立て、自己のアイデンティティを組み替えているようです。ユダヤ系思想家アドルノ風言えば、彼等は創造する場が生きる場所となるのでしょう。現代のアーティストは、軽やかにあらゆる領域を超えて活動し、新しく刺激的なアートを発信し続けています。

熊本市現代美術館館長 桜井武

生きる場所 ボーダーレスの空へ展
2012年9月29日[土] - 12月9日[日]

<http://www.camk.or.jp>

MUSEUM INFORMATION

2012 JUN-SEP

ミュージック・ウエーブ

展示会や季節にあわせたコンサートを開催しています

No.060 フルートアンサンブル虹

2012.6.9



県内で幅広く演奏活動をされているフルートアンサンブル「虹」の皆さんによるコンサートを開催しました。「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」「ジブリメドレー」等、アンコールを含め計10曲を披露して下さいました。今回のプログラムのうち2曲「亡き王女のバヴァーヌ」「庭の千草」は、展示会開催中の葉祥明さんによるリクエストでした。子どもから大人までたくさんの方に来場していただき、にぎやかなコンサートとなりました。(Y・M)

【参加人数100人】

STREET ART-PLEX KUMAMOTO 協働事業 Great Composer Memorial Series J.S.ベーム

2012.7.28

偉大な作曲家、バッハの命日を記念したコンサートが開催されました。バッハをこよなく愛する演奏者たちが集まり、「幻想曲短調 フルートソナタ 口短調より第1・2楽章」「メヌエット」「平均律クラヴィア2巻 1番 BWV870」などの曲目が披露されました。ピアノやフ



ルート、マリンバ、ヴァイオリンなどの多彩な楽器の音色に、会場は華やかな雰囲気になりました。(Y・M)

【参加人数100人】

STREET ART-PLEX KUMAMOTO 協働事業 JAZZ OPEN 2012

2012.7.28

ストリート・アート・プレックスとの協働事業として、ホームギヤラリーでは、この日、2本立てのコンサートとなりました。夕方から、熊本の夏恒例のジャズオープンが開催され、小中学生を対象としたサークル、熊本ジャズ部/銭塘小器楽部/B.B.S.による元気づけの演奏と、コンサートの最初と最後を飾っていた谷口英治・野本秀一 Duoの夕暮れ時にぴったりのクールな演奏に、ジャズの魅力が満載のコンサートとなりました。(Y・M)



【参加人数130人】

詩の朗読会

くまもと詩の朗読の会共催の自作の詩の朗読会です

テーマ「翼」

2012.6.28

第103回詩の朗読会が開催されました。飛び入り3名を加え、なんと19名の方が詩作を発表・朗読してくださいました!!「もし自分に翼があつたら...」「翼が無くてよい...」その2対になる言葉が印象的でした。(Y・M)

テーマ「夏」

2012.7.26

第104回詩の朗読会が開催されました。飛び入りの方1名を含めた15名による詩の朗読が行われました。今回は、実験的に、ギターの即興演奏をBGMにした詩の朗読が行われました。「夏」というテーマのもと、「汗」「青空」「初恋」「思い出」「天の川」「海」「ぎゅうり」「うちわ」「扇風機」「エアコン」「短い夜」など



テーマ「目」

2012.8.23

第105回詩の朗読会が開催されました。12名による詩の朗読の発表でした。目が見えないことや体の不自由さ、赤ん坊の汚れない目に見つめられてドキッとしたことや、目は口ほどにものを言うということわざもと入れられた男女の恋愛についてのポエムなど、目から発せられるさまざまな視線についての朗読が聞かれました。(C・T)

月曜ロードショー上映報告

毎週月曜日14時・18時より 無料

上映リスト(6/18 ~ 8/27)

- 6月18日「パニックスカイ」 2010年 カナダ、アメリカ映画 90分
- 6月25日「暗黒街のふたり」 1973年 フランス・イタリア映画 99分
- 7月2日「ミスター・ベースボール」 1992年 アメリカ映画 108分
- 7月9日「戦艦ポチョムキン」 1925年 ソ連映画 75分
- 7月16日「危険がいつばい」 1964年 フランス映画 93分
- 7月23日「じゃじゃ馬馴らし」 1929年 アメリカ映画 66分
- 7月30日「カリガリ博士」 1919年 ドイツ映画 67分
- 8月6日「鶴は翔んでゆく」 1957年 ソ連映画 96分
- 8月13日「父と暮せば」 2004年 日本映画 99分 *日本語字幕付き
- 8月20日「ヒトラーの秘密」 2004年 イギリス映画 91分
- 8月27日「アデュー・フィリヌ」 1961年 フランス映画 110分

崇城大学と財団法人熊本市美術文化振興財団との連携協定に係る調印式

2012.7.19

この協定の目的は、熊本市と崇城大学の包括的な連携の下、財団が指定管理を受けている熊本市現代美術館の事業等に関し、相互に協力し、地域社会の文化・芸術の振興と人材育成に寄与することを目的としたものです。(I・S)



CAMKEESの活動

美術館ボランティア
CAMKEES(キャンキース)による活動紹介

CAMKEES祭り

2012.8.4-5



美術館ボランティア
CAMKEESが中心
となつて、開館10周年
を祝うCAMKEES
祭りが開催されました。
連凧作りにへきが大会
CAMK劇場など盛り
だくさんの内容をご報
告いたします。(E・Z)

記録集作り

CAMKEES祭りの
一環として、美術館ボラン
ティアのなかで記録集チー
ムを結成し、これまでの活
動を振り返りました。
10年間のなかで印象に
残った活動、展覧会を写
真とコメントでまとめ、掲
示しました。



へきが大会(両日開催)



キッズファクトリー
では「へきが大会」が
開催されました。
10周年を記念して、
キッズファクトリーの
壁を塗り替えて新し
くなった壁に、子ども
から大人まで、みなさ
ん、熱心に想い思いの

絵を描いていました。賑やかで楽しいお部屋になりました。

【参加人数 160人】

明後日朝顔でしおりを作ろう

明後日朝顔の花が参加人数分、美術館で用意できるかどうかが一番の悩みの種でしたが、当日の朝は、普段では想像もできない量の花が咲いて、全員分が用意できました。花の周りに想い思いの絵をかいて、世界でたったひとつの力作、自分だけの朝顔のしおりをつくることができました!

【参加人数 24人】



「未来龍熊本大空凧」作り&凧あげ



CAMKEES祭りの目玉のひとつは、未来美術家・遠藤一郎さんの「未来龍熊本大空凧」作り。ホームギャラリーを会場に、遠藤さんの説明を聞きながら、参加者の皆さんと凧を作り、そこに思い思いの「夢」を描き込みます。その数なんと146個! たくさんの方にご参加いただきました。偶然美術館にいらつしやうた、幸山市長にも夢を描いていただきました。それを魚網用の細いロープでしっかりとつなぎ合わせ、熊本城の二の丸公園で



飛ばしました。ちょっと風が強く心配もしたのですが、見事にお城をバックに凧があり、子どもも大人も大喜び。青空にどこまでも続いていく龍の背中のように、居合わせた散歩中や観光客の方も見入っていました。夜は「ケミホテル」という蛍光スティックをつけた「夜凧」もあげ、昼間とは一味違った幻想的な凧あげとなりました。

【参加人数 146人】

CAMK劇場

CAMK劇場は、ホームギャラリーでキッズシアター(その1)「14ひきのあさごはん」からスタート。午前中にも関わらずたくさん親子連れが遊びに来てくれました。午後の部はキッズシアター(その2)「素敵で小さなお話 第1集」から始まり、14:00からのCAMK劇場では、布絵本さんが作ったお手玉遊びが大盛り上がり! 大人の方がついつい熱くなつていました。手袋人形を使った「かえるの合唱」の輪唱は、ピアノボランティアさんの伴奏つき。とつてもかわいの手袋人形は大人気でした!



最後は2002年の開館から今までのCAMKのあゆみを、ピアノボランティアさんの演奏を交えてご紹介しました。シアターになったり、劇場になったり大忙しのホームギャラリーでしたが、子どもたちのあふれる笑顔がいつぱいの、楽しいCAMK劇場になりました。

【参加人数 225人】



手作りの紙芝居を広げることで、現地の人とのコミュニケーションが生まれます。今回はその熊本版です。栗林さんが、ミュージシャン、カメラマンとともに熊本をめぐり、人々と触れ合いました。

この様子は今年の9月29日(土)に開幕する展覧会「生きる場所 ポーターレスの空へ」(9/29~12/9)で、展示室に映像作品として上映され、あわせてYataiも展示いたします。どうぞお楽しみに。(C・I)

講演会「アートが拓く新たな市民社会の可能性」

2012.8.25

平成24年度チャレンジ協働事業講演会クリエイティブカフェ01「アートが拓く新たな市民社会の可能性」を、ニッセイ基礎研究所の吉本光宏さんをお招きして実施しました。



この事業は「創造都市をみんなで考えよう」というテーマの下、熊本市と現代美術館が協働で実施するものです。今回は、日本における文化政策や創造都市研究の第一人者である吉本さんをお迎えしました。文化政策が教育、福祉、犯罪抑止など、他の政策に与える可能性や、世界の別の都市における創造都市の事例など、豊富な調査データをもとに、ボリュームたっぷりな飽きさせない2時間みっちりのご講演となり、会場からも積極的な質問が飛び、充実した会になりました。(A・S)

【参加人数 80人】

ART DE GYAN

アート・どぎやん。

*熊本弁でアートはどのような? という意味です

斬新さんしん) であると思う。特選14名、準特選55名、秀作73名が選ばれていた。会場は、半切の大きさという規定がある中で、伸びやかで躍動感のある作品が多く見られ、観る人も若い人が多かった。(S・K)

第27回書法篆刻展

2012.6.26-71

熊本県立美術館分館

熊本市千歳城町2-18

TEL 096-351-8411

に適する書は、筆遣いも工夫されて、落ちついた雰囲気のある作品となっていた。森山淡草会長の作は、淡墨の潤滑をきかせたりズミカルな変化に富む筆さばきはさすがである。三嶋天鴻さんの「山水訓」は淡墨でかいた山岳の見事な背景に詩文をうまく添えていた。中島豊泉さんの「泰山金剛経」の「寿」の横刻拓本は、素朴な味がうまく作られていて感心した。成田水邨さん、早崎和子さん、牧明日香さん、笠久美さん等の作品も印象に残った。(S・K)



書家の平方研水さんが主宰する維熊篆会(いゆうてんかい)の約60人が篆刻や篆書、隸書など大作を約100点展示した。平方研水さんは「大象無形(たいしようむけい)」を篆刻と篆書で大書していた。迫水苑さんは篆刻と行書の大作を見せていた。米村静山さんの魏武帝短歌行の努力作が目についた。外に平石畔雨さんの篆書、浅野硯堂さんの篆刻、川井通水さんの篆刻、嶋田薫堂さんの隸書作品が秀作として見られた。貴重な中国の古印材や古硯等も展示されていた。(S・K)

熊本市立美術館本館
熊本市中央区一の丸2
TEL 096-352-2111

第31回熊日新鋭書道展

2012.6.19-24

熊本県立美術館本館

熊本市中央区一の丸2

TEL 096-352-2111

熊日主催の同展は若手の発掘や書道の裾野の拡大などを目指して毎年開催している。今年も274点の応募があり、県書道連盟役員7人によって審査されている。グランプリの「熊日新鋭賞」を獲得した由館高校2年の上内美里さんの絹に書かれた帛書(はくしよ)の漢詩が入賞した。若さと力強さのある用筆が



大久保倫子さんの卷子本は線のリズムのうまさを見せている。三嶋天鴻さんの「五高寮歌」は筆さばきもうまく大らかさを感じる作となっていた。岩本竹田さんは「書は熱中に生を求むべし」と自分の書の「本質」をねらっている。それぞれに自分の顔を持った作品が多く見られたのは好感がもてた。(S・K)

アトリエ花の木創作展

2012.8.14-19

熊本県伝統工芸館

熊本市中央区千歳城町3-35

TEL 096-324-4930

熊本市にアトリエをもつ、造形作家、和田鈴子さんに



よる創作展。今回は、夏季開催のため、金属、ガラス、土、木の素材の中でもガラスを用いた涼しげな作品を多く展示した。デザインから制作まで全て一人でやっている。和田さんはアクセサリーだけではなく幅広く制作したいという考えをもっており、帯留め、ネックレス、食器、写真立て、オブジェなど多種多様な作品を手掛けていた。和田さんと一緒に写っている作品は鏡と曲げたパイプによって自身の内面の複雑さを表現しているようだ。会場内で目を引いた作品は宇宙をテーマに、エッチングした銅板に七宝を焼き付けた印象深いものだった。どの作品も丁寧に作られており、和田さんの独自の世界観に引き込まれる展示会だった。(A・K/K・N/R・I)

第40回記念硯心展

2012.8.14-19

熊本県立美術館分館

硯心展は熊本大学書道部OBの書道展である。59名が61点を展示した。今年には40回記念であり大作も多く見られた。自分の「想い」や「考え」を書き表現するという姿勢が強く見られ、書風や派閥を越えた作品が会場を明るく楽しいものにしていった。



第23回選抜茶掛け展

2012.7.18-22

熊本県立美術館本館

国際文化交流会(森山淡草会長の書作展である。県内の各書道界から推薦された会員による書展で、76名が1点ずつの茶掛けの作品展である。自分の想いの詩文や、禅僧の言葉等、茶室

MUSEUM INFORMATION

第8回城下町くまもとゆかた祭・MATCHFLAG

2012.7.14-15



熊本市中心商店街等連合協議会主催の熊本の夏の大会「第8回城下町くまもとゆかた祭」が開催されました。この両日は例年通り、当館へゆかた着用で来館された方は観覧料半額のサービスを行いました。あわせて、下通祭栄会主催イベントとして(共催:熊本市現代美術館、妊娠・出産・子育て情報ネットワーク「らみつき」)「ゆかたdeなでしこマッチフラッグ」が開催されました。

なでしこTeamを応援するフラッグなので、かわいい生地や和柄もまじった華やかな古布がたくさん用意されました。初日は、全国からも心配された大雨で、急遽会場を変更して、当館キッズファクトリーで開催しました。布を選んで、切って、縫う。親子やお友達同士でこつこつ楽しく進めました。翌日は雨もあがり、街なかはやかたを着ておでかけする方々で大いに活気づきました。下通りアーケード内でワークショップを開催。たくさんの方々に参加していただきました。日本×カナダ戦を応援するマッチフラッグがいち早く完成!後日、南アフリカ戦、スウェーデン戦のマッチフラッグが完成し、応援の旗を掲げました。(H・T)

松永あかり 第3回花の絵展

アトスベース大玉堂
熊本市中央区上通町5・6
TEL 096・3564・2155

2012.8.15-20



熊本で活動する松永あかりさんの3度目の個展が開催。3年前の個展では水彩画が中心であったが、今回は新たに日本画にも挑戦し、日本画と水彩画合わせて15点が展示されている。庭にたくさんの花が咲いているのを見て、それを日本画で表現したいという思いが強くなったという。

特に作者の自信作は、日本画で描かれた「くさぎの花」である。澄んだ深い色合いの背景に、白い花が儚くも強く咲く様子に目がひかれた。この作品は、15点の中で唯一絹本（絹の下地）で描かれたものであった。全体的に、素材で可憐な花々の絵に生命力を感じるとともに、ほっと心の落ち着くような個展であった。（Y・M / A・Y / S・S）

第28回 熊本平和美術展

熊本県立美術館分館
この展覧会の参加人数は66名、出品点数は83点である。

2012.8.14-19

展示作品は、絵画、写真など多岐に富んでおり、出品されている岡松宏泰さんにお話を聞くことができ

た。岡松さんの作品は「古代蓮」（芍薬）（カタクリ）の写真3点である。「特に平和とは関係ないかもしれないが、自由な文化活動は、平和だからこそできるのではないだろうか」と仰っていた。展覧会には、当初、被爆者の方でも多く出品されていたが、現在は高齢化により、被爆経験のある方の出品数は減少しているのが現状だ。一方、今年は、昨年の原発事故を受けて、核廃絶と平和への願いを込めた作品が多数寄せられた。会場には熱心に作品を見る来場者が多く、それぞれの平和について考えられる展覧会となっていた。（A・W / H・H / M・K / Y・S）



白彫会 博多人形秀作展

熊本県伝統工芸館

2012.8.14-19

プロの博多人形師が集まった白彫会が1年に1回開いている展覧会で、様々な人形が見られる。博多人形は1つを作るのに1年から3年かかり、同じ作品はできない。人によって作るものは異なっているが、基本はま



ず顔を作り、そこから自分のイメージに合う人形を作っていく。今回私たちが注目した作品は、小嶋慎二さんの香合（こうごう）の作品である。香合とはお香を焚く前に置くもので、小嶋さんは縁起がいい龍冠や福犬など十二支をモチーフにしたものを作っている。顔の表情から着物の模様までしっかりと細部まで手が行き届いた仕上がりにお客様も見入っていた。（E・T / M・M）

2012 肥後象がん展

熊本県伝統工芸館

2012.8.14-19

肥後象がん振興会主催の、肥後象がん士らによる作品展。肥後象がんとは、金工芸の一種であり、熊本県の伝統工芸である。今回の出品作家は、5名。作品の展示・販売にあわせて、実演・体験コーナーも設けられており、日頃見ることが出来ない製作過程を知ることができる。出品作品は、伝統的な刀のつばや花瓶から、ストラップやアクセサリ、くまモンに至るまで種類は様々。中には、チタン素材の眼鏡に象がんを施したものもあった。実用化を目指した新しい挑戦もみられた。伝統工芸という堅苦しさを感じさせない、それぞれの異なる雰囲気個性が表れた展覧会であった。（M・O / H・N / H・Ts）



Visitor's letter

来館者のみなさんからのメッセージ
アンケートに寄せられた感想(抜粋)を紹介いたします

篠山紀信展

- ・力を感しました。写真ってすごいなあと素直に思った。(熊本市・30代・男性)
- ・写真の力を感じることができた。(熊本市・40代・男性)
- ・すばらしく大変感動しました。(熊本県内・70代・女性)
- ・素晴らしい懐かしい人達と出会えて嬉しかった。当時の時代背景もよみがえって来て、奥深い展覧会でした。(福岡県・60代・女性)
- ・一瞬の時をとらえた写真達に圧倒されました。美しさに感動するもの、哀しくなるもの、わくわくするもの、あらゆる感情を楽しめました。(福岡市・20代・女性)

編集後記

今年の夏の当館はアーティストが千客万来でした。篠山紀信さん、ウォールアートフェスティバル報告を行った収蔵作家の浅井裕介さん、「生きる場所」展出品アーティストの栗林隆さん、CAMK10周年イベント招聘アーティストの遠藤 郎さん、年明けに個展を開催する奈良美智さん。当館はこの秋10月12日に10周年を迎えます。これからも益々、注目のアーティストたちと市民のみなさまとのフレッシュな出会いと対話の場として活き活きと機能するよう努めてまいります。

編集長 富澤治子

今号から、編集を担当することになりました。どうぞよろしくお願いたします。

誌面で紹介している「未来龍熊本大空凧」の夜凧の凧揚げに参加してきました。一人一人の夢をのせて、熊本城を横目に揚がる夜凧は、まるで龍が天に昇るようで、幻想的でとても感動しました。夜空に揚がる凧を見てみると、本当に夢が叶うような気がしてくるから不思議です。今後も展覧会やイベントを通じて感動やわくわくする気持ちを市民のみなさまと共有していきたいと強く感じました。

担当 濱川倫子

【執筆後記】*原稿の文末にイニシャル表記
兼城昌山(書道家)(S・K)
森山淡草(書道家)(T・M)
本田代志子(熊本市現代美術館主任学芸員)(Y・H)
蔵座江美(熊本市現代美術館主任学芸員)(E・Z)
富澤治子(熊本市現代美術館主任学芸員)(H・T)
坂本顕子(熊本市現代美術館主任学芸員)(A・S)
芦田彩葵(熊本市現代美術館学芸員)(A・A)
高橋知江(熊本市現代美術館学芸員)(C・T)
濱川倫子(熊本市現代美術館学芸員)(N・H)
丸吉ゆかり(熊本市現代美術館学芸員)(Y・M)
平原奈津美(熊本市現代美術館学芸員)(N・H)
杉谷和泉(熊本市現代美術館総務主査)

ART KISS LETTER アートキッスレター
vol.59秋号(2012年10月)【無料】
発行人: 桜井武

編集: 富澤治子
デザイン: 石井克昌(MOTOSHIKI)
印刷: シモダ印刷
発行: 熊本市現代美術館

860・0845
熊本市中央区上通町2・3
電話 096・278・7500
ファックス 096・359・7892
http://www.cank.or.jp/

【次号は新春号(1月発行予定)】

未来美術家
遠藤 一郎 さん



8月4日に当館で未来龍大空凧のワークショップを行い、熊本城で凧上げを行いました。

遠藤：熊本に来るたびに思うのですが、全国的にみても「楽しんでしようとする精神」が強いですね。気質でしょうか？参加者の皆さんすつごい楽しそうだなー、と会場をトックで盛り上げながらもおもしろくながめていました。

今回の凧は全部で146点！沢山の方に参加してもらえました。

興味深かったのは、気軽に参加できるように、すでに「凧」が出来上がっていて、あとは夢を描くだけというセットをたくさん用意していたんですけど、「凧」本体から作って参加する人がとても多かったことです。これも、与えられたもので満足するんじゃないくて、手作りすることで、全部を味わおうとする気持ちを感じましたね。

ひとりひとり、夢を書いた凧を手に、自分の夢を発表していましたね。

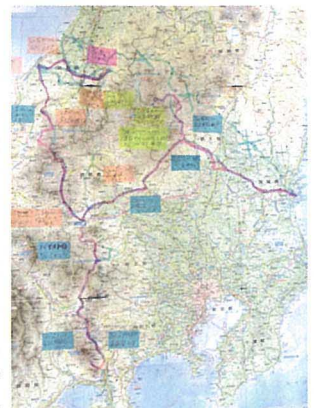
遠藤：まず、夢を書くっていうことは実は結構ハードルが高いことだと思っっています。さつさと書ける人もいるし、すごく悩

む人もいます。これは大人も子供も関係ないですね。心に夢を秘めているのも大事だと思いますが、発表するのも同じく大事だと思っっています。それで、皆の前で自分の夢を発表するのって、めったに機会がないと思うんですね、参加者は新鮮な体験だろうし、「おお、その夢頑張れよー」とお互いにエールを送ったり、共感したりする。ひとつひとつの夢が書かれた凧が、連凧として糸で繋ぎ、夢を空に飛ばすという行為と同時に、気持ち的にも大きな共感と一体感を持つことができます。皆の夢を聞くのって、わくわくして面白いことでもありますしね！

もちろん、書いた夢は叶えるために、個人がこれから精進していくと思っますし、それを支えるのが、この連凧で出来た共感の輪と、繋がり、実際に空を飛んだ感動だと思っますよ。

未来へ号の現在進行中のプロジェクト「RAINBOW JAPAN2」について教えてください。

遠藤：今、バス「未来へ号」は東京・千代田の3331に駐車中です。ただいま、日本全土を舞台に、GPSでメッセージ「↓ARIGATO」を書いているところで、「T」の途中にいます。今回は、大雨被害の影響を僕も受けていて、全く他人事ではあ



りません。関東全土をつかって描いた「A」は、大雨被害で橋が落ちて通行止めになっているところが未完なのです。「未来へ号」はバスだけではなく自転車「未来へ号チャリ」があるので、その場所は、クルーの信長とトモヒコで、チャリで行きます。二人とも男気を出して「望むところですよ！」と言ってくれた笑。

日本全土をつかってメッセージを書くのはどういう気持ちになりますか？

遠藤：ものすごく「大地に描いている」という感覚です。移動の目的が、「描く」ということですから、これまで通ったことのある道でも、全く違う感覚で走りますし、違う表情が各土地に見えて来ます。

連凧ももちろんそうで、ただの子供の遊びだったものがガラッと表情を変えていきます。皆の夢を繋いで空に飛ばすことで、夢は一つでは、一人では飛ばないものだ、というメッセージを放っています。これまでの既存の価値や意味を変えていくのは美術のキーポイントのひとつです。

それで、メッセージを書くために走っていると、日本全土は、漠然とした「国」というよりは、リアルに「島」なんだと、より大きな視野を持つことができました。この島はどういう特徴があるのか、どういう暮らしをするところなのか、どういう生き方が

この島に合っているのか、と考えます。僕たちは今が最先端、それは例えば東京から情報として発信されるものだと勘違いしてきたなと思っっています。実際に走っていると、ほとんどは海と山と川と森で、「日本島」の土着精神で生きている人が圧倒的に多い。最先端ってなんだろう、もしかして過去にもすつごい最先端があるんじゃないかと思っます。また、走っていると、至る所に、社や小さな祠を媒体とした自然信仰を見つめます。自然と共存するということが「敬意」と「感性」と「祈り」ともに行ってきた先人の姿を感じました。また、すつごい山奥にぼつーんと住んでいる家とかあるんですよ、細い吊り橋で山と山が繋がっている向こう側のような、相当な意志を感じるので次の機会にはぜひお話を聞いてみたいと思っます。熊野で鹿が前を先導するのでついて行ったら、ひどい山道に当たって、崖に落ちるかとおひやひやしました。あれはたぶん化かされていたと思っます。

遠藤さんの体験を聞いていると、まさしく冒険ですよ。

遠藤：そう言っていただけだとすつごくうれいいます。すつごく危険な未踏の土地に行くのだけが冒険ではないと思っっています。自分の通い慣れた道を通りながらでも、大冒険はまだまだいくらでも潜んでいます。テーマカラーは黄色ですよ、理由はありますか？

遠藤：明るいからです！（笑顔）

（聞き手：富澤・インタビュアー：2012年8月5日）



Letters from Artists